

壺中雜記 (29) — 歴史文化博物館から —

国の重要文化財金剛輪寺二天門  
保存修理

国の重要文化財である金剛輪寺二天門の保存修理が、11月30日に完了しました。9月9日には、金剛輪寺二天門の修理現場見学会が開催されました。

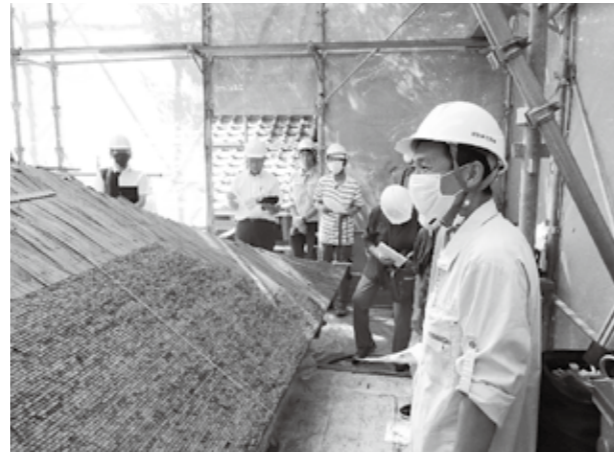
国の重要文化財金剛輪寺二天門

金剛輪寺二天門は、国宝の本堂の正面にある門で、昭和36年（1961年）3月23日に国の重要文化財に指定されています。二天門の建立年代については、滋賀県文化財保護課では様式から見て本堂より遅れて室町時代後期としています。

一方、組物（くみもの 杵肘木）が古式のため、室町時代中期頃ではないかという意見もあります。

二天門は、構造形式が八脚門であり、寺伝によれば、当初は楼門でありましたが、江戸時代中頃に二階を取り壊し現在のような一重になったと伝えられます。

また、正面両脇間には金剛柵を立て、左右それぞれに江戸時代の製作とみられる仁王像を安置しています。



▲金剛輪寺二天門修理現場見学会

今回の保存修理事業では、屋根の葺替えと、破損個所の修理を行いました。令和4年度は、耐震基礎診断を実施し、令和5年度には屋根の葺替え等の修理を実施しました。

9月9日には、重要文化財金剛輪寺二天門修理現場見学会が3回に分けて開催され、合計57名の参加者がありました。

参加者は、屋根の葺替え等の修理状況を見学し、古来より用いられてきた伝統的な工法に関心を寄せておられました。



重要文化財金剛輪寺二天門建造物保存修理事業  
概要

- 1、事業名  
重要文化財金剛輪寺二天門建造物保存修理事業
- 2、期間  
令和4年4月1日～令和5年11月30日  
(2ヶ年事業)

歴史文化博物館 学芸員 竹村 吉史



▲保存修理後の金剛輪寺二天門

金剛輪寺二天門の保存修理

金剛輪寺二天門は、昭和63年（1988年）に屋根葺替えの他、木工事、左官工事、雑工事が行われました。その後、35年が経過し屋根の檜皮葺が全体的に腐朽・破損、さらに、箱棟、鬼板等も破損が生じていました。

3月は自殺対策強化月間です。

～身近な気づきと支えあい

誰もが自分らしく輝けるまち あいしょう～

令和6年4月からの第2次愛荘町のち支え愛プランを策定しました

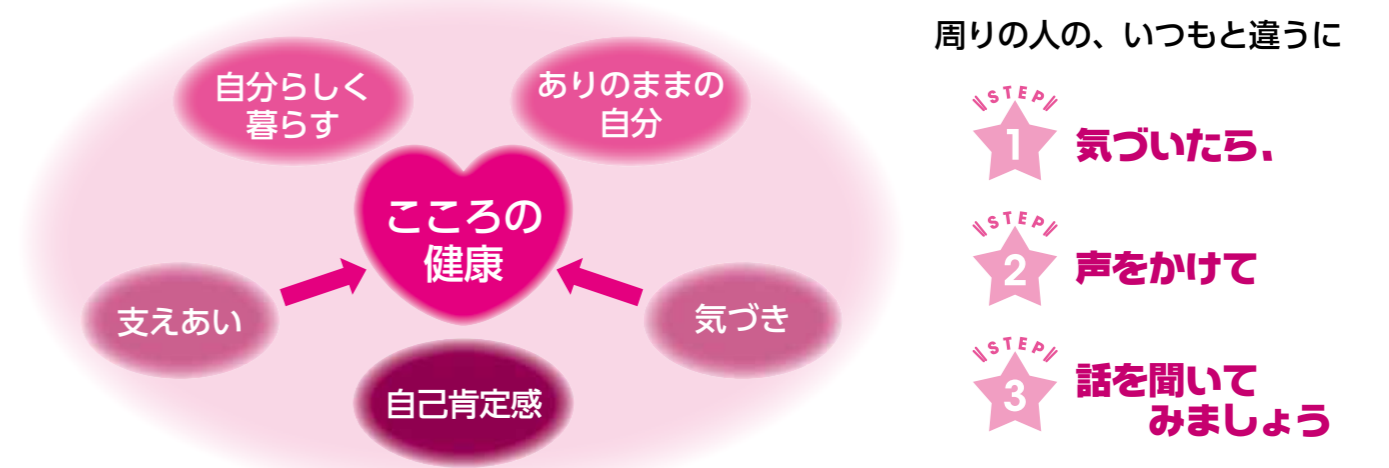
自殺は、その多くが追い込まれた末の死であり、自殺の背景には精神保健上の問題だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立、ひきこもりなどの多様な社会的要因があることが知られております。

また、様々な悩みが原因で追い詰められた結果、自殺以外の選択肢が考えられない状態に陥ってしまうものと考えられます。

家族や社会とのつながりの希薄化が深刻化しているとともに、自己肯定感の低下、与えられた役割の大きさに対する過剰な負担感など、自殺は「個人の自由な意思や選択」の結果ではなく、追い込まれた末に「誰にでも起こりうる危機」だと言えます。

また、誰もが自分の長所も短所も含めてありのままの自分を大切に思えること、そして人のことも大切に思えるよう、自己肯定感を高め、当たり前な生活を幸せに感じることができ、こころの健康を保つことも必要です。

すべての住民がかけがえのない個人として尊重され、自分らしく暮らすことができるまち、また、身近な地域の中でお互いに気づきや支え愛があることで、幸せな暮らしが守られるまちを実現するため、「第2次愛荘町のち支え愛プラン」を策定しました。



自殺予防電話 077-566-4326  
9時から21時（年末年始を除く）

こころの電話 077-567-5560  
平日10時～12時、13時～21時

話してください あなたの悩み 相談機関はこちらから▶



☎健康推進課(愛知川庁舎) ☎0749-42-4887